

# 平成 29 年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

## 第 2 回会議 議事要旨

日時	平成 29 年(2017 年)9 月 25 日(月)18 時 30 分～20 時 10 分
場所	第二庁舎 3 階大会議室
出席者	石川委員、吉村委員、増田委員、古川委員、重澤委員、畑中委員 計 6 名
欠席者	高橋会長、山下委員 計 2 名
事務局	政策企画部企画調整課：足立、糸井、榎本、東良、上野、上田
傍聴者	0 名
案件	1. 前回の振り返り 2. 答申案について 3. その他 (1) これからの私たちの南部地域を創る市民ワークショップ(報告) (2) 答申の日時について(報告)
資料	【資料 1】 第 1 回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨 【資料 2】 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案) 【資料 3】 市民ワークショップの概要について
会議録	下記のとおり

### ●開会

### ●職務代理

事務局

本日は会長がご欠席のため、職務代理の委員に会長代理をお願いしたいと思います。

### ●成立要件の確認

事務局

本委員会規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、会議成立には委員の過半数の出席が必要です。本日は、委員総数 8 名のうち、6 名の出席がありましたので、会議は成立しています。

●資料について

事務局

(資料について説明)

会長代理

それでは、案件1「前回の振り返り」を事務局から説明してください。

●案件1. 前回の振り返り

事務局

前回の委員会でご審議いただいた内容についての振り返りをご説明いたします。

(「【資料1】第1回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨」をもとに説明)

会長代理

ただいまのご説明についてご質問、ご意見はありますか。

先ほど開業率について説明がありました。データの取り方が変わってきているとのことですが、いかがでしょうか。

委員

日本の開業率が低いことは、いろいろな機関・調査結果で言われていることです。いただいた資料でみますと、平成26年の新設事業所数が2,250所、開業率が6.72%ですが、廃業事業所数がそれを上回る2,469所なので、なんとかする必要があると思います。

会長代理

そういう意味では、開業率という1つのデータでは見えてこないこともあると思います。先ほども仰っていましたが、廃業事業所数が新設事業所数と比べて多くなっている印象を受けます。結局は新しいものができてきているが、古いものが廃業していった企業の体力が低下していることも否めないと思います。そう考えると、開業率だけで考えるのは問題が隠れてしまう状況もあるので、数字の裏を見ることも重要だと思います。

委員

新聞記事では、神戸市の取組みについて詳細に載っていました。神戸市はビジネスが上手な都市ですが、その神戸市でも苦しんでいます。いろんなところが取り組んでいる内容を調査・精査して参考にしたら、アクティブな取組みにチャレンジできると思います。これは豊中だけの問題ではないので、解決策を含め、共有していくと、もっと楽しいこと

ができると思います。

#### 会長代理

神戸市を含め、他都市でも若い人材の確保が課題になっています。大学生が就職活動をするとき、なかなか地元が目向きません。その理由は、彼らの就職活動がリクナビ・マイナビといった就職ポータルサイトからの情報しか取れなくなっているからです。そこにエントリーしている企業なら、なんとなく良い企業だろうと思ってしまいます。しかし、サイトにない地元企業はたくさんあります。良さがよくわからないので、最初から就職先の選択肢に入れない状況になっています。そのため、なかなか地元就職に繋がらないのが現状です。地元で非常に優良な企業でも採用ができず、廃業に繋がってしまうのかもしれない。このような負のスパイラルがあることは自治体も把握していて、学生に対してどういう情報を出せばよいか、リクナビ・マイナビとは別の方法で地元就職に繋げる取組みをしています。豊中市でも同様に学生が有益な情報を取れていない、企業の情報がわからないのかもしれない。その結果として企業の体力が低下しているのかもしれない。開業率をアップさせることだけを見るのではなく、廃業率をできるだけストップさせるために行政がなにをすべきかをもう一度しっかり考えてみることもこの数字から見えてくる課題です。

#### 委員

産業振興審議会でも起業の問題は大きく取り上げられています。日本の企業は創業 100 年とか古い企業が多いです。それは素晴らしいことですが、全然成長しないでマイナス成長でも長く続けているのがいいというわけではありません。成長し続けることによって長く続くことが素晴らしいものになっていくのです。今まで日本は東南アジアを上から目線で見ているところがありましたが、東南アジアの上級管理職と日本の給料が逆転しています。これは日本が停滞している間に、抜かれてしまったということです。創業からの年月に喜んで、上を目指していく夢とか希望といった力が弱っているように感じます。市職員の方に「起業しにくい理由は何だと思えますか。」と質問をしたら、「日本は失敗を許さない社会だからだと思います。」とお答えになりました。例えば豊中市職員に会社を興してもらって、3年たって失敗したら市役所に戻ることを許すような取組みをしてみると面白いと思います。「失敗を許さない社会」ということはみんなわかっているのに、次の一歩が出ていかず、言葉遊びをしているように感じます。

#### 委員

次の一歩をどうやったら踏み出せると思えますか。

#### 委員

次の一步を踏み出すときに、日本社会では失敗したら終わりだとおっしゃいます。しかし次の一步を出さないと衰退していくばかりです。

#### 委員

地元の会社に就職する流れが全体的にあるのでしょうか。次の一步を踏み出すために、若い人たちが起業しやすい体制づくりをしているのか、若い人たちがどのような仕事をしたいのか、というところを情報として発信できているのでしょうか。豊中市が面白くなってきたという感覚をどのように作っていくのかも必要だと思います。1つなにかすれば解決するものではないので、そういう意味でも情報の発信が届かないため、リクナビ・マイナビといった大手が情報発信を行っているように思います。では豊中市がどうやって発信していくのかをこの委員会で話し合えれば面白くなるのではないのでしょうか。

#### 会長代理

豊中市には大学があるので10代20代の流入人口は増加していると思います。その人たちがその後定着しているのか出て行っているのかわかりますか。

#### 事務局

大阪大学と大阪音楽大学があるので若い人は入ってきていると思いますが、その方たちが卒業後定着しているのか転出しているかまでは把握できていません。人口では40代までは流入が続いています。

#### 会長代理

神戸市では大幅に下がっています。神戸市は23大学ありますが、入学のときに流入して、卒業のときに流出するのが顕著です。豊中市はデータがないとはいえ、そこまで顕著ではないということですか。

#### 事務局

そうです。

#### 委員

若い人たちが、定着しているなど、どういった動きをしているのかといったワークショップはありますか。

#### 事務局

若い方たちを対象にしたものはありませんが、総合計画を作っている中で若い方たちに来ていただいて、どういったまちになってほしいかといったことは聞いたりしています。

#### 委員

面白い方はたくさんいると思います。しかし市がどこで何をやっているかはなかなか見えにくいように思います。

#### 会長代理

若い人たちが就職する際に、情報の信頼性を含めて捉えきれていないのが現状です。そうなると大企業志向といった、なにかお墨付きがほしいと思ってしまう。

#### 委員

見た目がきれいなホームページなど、情報の発信が上手なところなどに惹かれますね。

#### 委員

豊中市には路線バスがあるが、乗降客を含め、若い人の利用客が年々減ってきています。定年退職しても豊中市に住んでいる人もいるが、若い人たちは出て行っている印象があります。大きい企業は多いが目立っていないし、工場も減っていて、輸送人員も減っています。南部地域には大阪音楽大学があるが、学生は通っているだけで住んでいないし、庄内駅から大阪音楽大学まで距離があるのにバスがあるわけでもないです。庄内駅周辺でも新しいものができていないなど、若い人向けのまちになっていません。若い人が多いのに取り込めることをするべきなのにできていません。変えろとすれば若い人たちが庄内っついまちと思ってもらえるようなことを市役所以外とも連携してやっていく必要があると思います。人を寄せるときに、ただ単に開業するだけでは人は寄ってきません。そういう学生さんを目玉になにかやっていくべきです。目で見えてわかるインパクトがあるものを考えていけないといけないと思います。

#### 委員

廃業している企業の理由として、オーナー企業のところは跡取りが一番の課題になっています。東大阪市とタイアップして事業承継セミナーをしています。中小企業オーナーの子どもは高等教育を受けて、弁護士や医者などになってしまう場合が多く、なかなか会社を継ぎません。会社・地域の魅力があって、東京に行っても戻ってくる土壌を作るとは行政の中でも何かできるのではないのでしょうか。

#### 会長代理

やり方としてはいろいろあると思います。やり方によって、どんどん大企業に行って流出が止められないというわけではないので、しっかりとした地元で根付いてもらう方法はあるはず。情報発信の観点ではどうでしょうか。

## 委員

以前見たバラエティ番組で、大阪市に接しているまちの企画がありました。堺市・豊中市・東大阪市を特集していましたが本質をついていると感じました。堺市は規模が大きく、歴史もあり、仕事もあり、住むところもあります。東大阪市はものづくりの町、豊中市はポテンシャルが高く、イメージとして住む場所として憧れるといった紹介をされていました。豊中市で登場する市民も誇りを持って住んでいます。しかし、そこに仕事は出てきません。ここで話していることを象徴していると感じました。本当に住むところと仕事を両立しなければならないのでしょうか。住むところの魅力をもっと前面に出してもいいのではないかと思いました。しかしこの番組で紹介されている豊中市は中部・北部で南部は出てきません。これからの南部は学校再編が大きな変化を与えてくれます。しかし学校の変化は非常にゆっくりですので、長いスパンで見守りつつ、その間に周辺環境を整えていく必要があります。学校再編はこれからのまちづくりの中核になるものとして考えてほしいです。

## 会長代理

豊中市にはいろいろな顔があり、ポテンシャルがあります。それを十分に活かしきれていないのかもしれない。それを十分に活かすことを考えてほしいです。新しいものを作り出していくのも1つの方法ですが、いろいろな顔のものをそれぞれの地域の特徴に合わせて、新しく作り出す、もしくは投入するといったことを考えてほしいです。すべてにとってオールマイティな都市ではなく、それぞれの特徴に合わせた形で資源を投入・活用してほしいと思います。

続きまして、案件2「答申案について」事務局から説明してください。

## ●案件2. 答申案について

### 事務局

答申案についてご説明します。

（「【資料2】豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案)」をもとに説明）

### 会長代理

ただいまのご説明にありましたように、答申が10月4日ということであり日がありませんが、答申案にこの委員会での意見を盛り込んだ形にしますので、いろいろなご意見を頂ければと思います。

委員

こういった答申にはどの程度実行性があるのですか。

事務局

諮問に対する答申をいただいたということで、これをもとに施策を進めていくのが基本になります。来年度も総合戦略の委員会がございますので、そこで昨年度の答申を受けてどうしたかを説明いたします。

委員

市役所としての積み上げはわかりますが、これが実際市民の側としてどう届いているのでしょうか。市民が答申を読んでも伝わらないと思うので、そこをどうしていくのか考える必要があります。

会長代理

答申での審議結果は限られており、今まで議論してきたなかでの、いろいろな思いが具体的には見えなくなります。市民の方からすれば結局どうなっているかがわかりにくく疑問になると思います。

委員

委員と事務局が共同で行っていることがテーマだと思います。ワークショップやとよなか地域創生塾ではそういった手法を教えてもらっていますが、こういったものを活かせないかと思います。

会長代理

この豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会の広報はどうなっていますか。具体的に市民の方に情報を伝える部分で何かしていますか。

事務局

市民の方にお伝えする手段として委員会を開催していることをホームページと広報とよなかでご案内しています。答申などをいただきました場合でも、同様にご案内しています。

会長代理

議事録も掲載していますか。

事務局

掲載しています。

#### 会長代理

委員会での具体的な議論について、まったく市民に触れないということはなく、議事録として公開されています。しかし市民の方にアクセスしていただく必要がありハードルは高くなります。

#### 委員

それは既成事実的で、先ほどのリクナビ・マイナビのようにホームページの見せ方が上手ならいいですが、市役所のホームページはどこも似ていて、かなり入り込んでいく必要があるのでもわかりにくいです。発信の仕方、伝え方を考えていただきたいと思います。

#### 会長代理

市民への情報発信も重要ですが、庁内への周知も気をつけてほしいと思います。ここで話し合った内容を庁内に届けるべきです。委員会での意見を担当部局にフィードバックしてひとつの筋を作っておかないと、この委員会だけの議論で終わってしまうことになりま。庁内にまったく伝わってなければもったいないです。市民への情報開示も必要ですが、庁内への周知はどうですか。

#### 事務局

いただきましたご意見について担当セクションがはっきりしているところはその都度伝えていきます。特に産業はこの審議会と密接に関係しておりますし、教育も同様です。しかしその後担当セクションがどうするのかというところまで追いきれているかということもあるので、今いただきました意見を踏まえて担当セクションに伝えます。

#### 会長代理

審議結果だけみると、進捗状況は非常に順調だといった現状維持が良いような感じで見えてしまうので、進捗状況のKPIとしては特に不備がないように感じます。しかしその流れとは別にいろいろな課題があることも認識して担当部局に伝えていただければと思います。

#### 委員

担当部局がその時々に応じて重要だと認識したことに集約していってしまうように感じます。産業振興審議会では、テーマの大半が住工混在の問題になっています。豊中市の産業をどうするのかといった、もっと大元の問題があるはずですが、できてしまった住宅と工業について、先ほどの南部の問題でも絡んできますが、南部は元々工業地帯・準工業地帯でした。しかし行政が放置していたため、工業地帯にも民間住宅がどんどん入ってきて、住んだもの勝ちになってしまいました。そのため、先ほどの委員がおっしゃった住宅都市



としての豊中市の印象を表していて、行政が過去 50 年に積み上げてきた世界を表しています。行政は過去 50 年住まいを優先してきました。その結果工業地域にも住宅が入ってきました。しかしここ 7,8 年で行政は、住宅だけでなく工業も必要という姿勢に変わり、住工混在になってしまった問題を今どうするのかを産業振興審議会がメインテーマにしています。産業振興審議会とまち・ひと・しごと創生総合戦略委員会で本来の議論のあり方と違う気がしますが、それぞれの審議会では何を主要に置いているかが見えません。

#### 委員

日本全体の産業構造の転換についてはどのようにお考えですか。

#### 委員

一時期の円高で日本の企業は海外に出て行きましたが、最近の円安で海外の工場が日本に戻ってくる動きが発生しています。その受入れとしてどうするかという問題で、地方の町村が必死になって会社を誘致しています。それに比べると豊中市は恵まれたエリアで、それゆえにぬるま湯であると思います。そのぬるま湯の状態では真剣な議論はできていません。その結果、大工場が出て行って、大手がいなくなっています。「まち」・「ひと」・「しごと」の中で「しごと」が入ってないと感じます。いまだに幸せな住環境といった考えが根底にあり、いくら議論しても本音の部分で消えていってしまうように感じます。

#### 会長代理

本委員会は上位に位置していて、市が大きな方向性を示すものだと思います。いろいろな市の状況にあわせて、各部局は課題を抱えていると思いますが、それにも注力しないとイケない中、K P I を着実に達成するための政策もやっていかないとイケないです。そのバランスは難しいかもしれませんが、こういう戦略を立てたからこそ着実に 1 つの方向性に向かってやっていただきたいです。その意味でもここで話し合うことは、K P I が達成されているかが中心になりますが、委員の皆さまはいろいろな思いを持っているので担当部局に伝えていただいて、課題解決に向けて動いていただきたいと思います。

#### 委員

答申案については、結局この文章でいいのかということですね。この文章からは委員の皆さまの思いや方針が読み取りにくいように感じます。

#### 会長代理

答申なので、これぐらいの分量になるのは仕方がないところもあり、歯がゆいところではあります。ここで議論された内容を伝えていただくのが重要だと思います。答申は諮問されたことに対するもので、いろいろな情報を書くのは難しいです。

委員

委員会では、この答申案をチェックするだけですか。

会長代理

例えばこういう言葉を入れてほしいというのがあれば、言っていただければと思います。ただ個々の施策に関しては難しいと思います。

委員

次の一手というのはいいのではないですか。

委員

そもそも答申というのは、ここで話し合ったことをこうしてくださいと伝えるものですか。答申にこういうことを足してくださいということはできるのですか。

事務局

他の審議会では諮問内容以外にいろいろなご意見をいただいたものを意見集という形で、審議会と一体ながら少し切り離れた存在として付け加えることはあります。

会長代理

この委員会で諮問されたことは「豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について」ですので、いろいろなK P Iを設定して順調に進んでいるのか、進んでいないのかを委員会の意見として求めます。審議結果の1つ目のところで「K P Iは概ね順調に進んでいる」といった書き方になると思います。例えば「K P Iの種類によっては、社会的背景による増減もあるので、それはしっかり見てください。それを見ながら政策推進に努めてください」というのを盛り込むことはできると思います。それから「取組みとして市民と共有していくことが重要です」というのは前回の議事録でもありましたので、今後の取組みとして審議結果の最後の2行のところに皆さまのお気持ちを汲む形で盛り込むことも可能だと思います。もう少し強調したいところなどを入れていただいてもよいと思います。具体的な政策に関しては難しいですが、今後やるならこういうことをしていただきたい、留意していただきたいことを書き込むことは可能だと思います。何か入れていただきたい言葉とかあれば言ってください。

委員

危機感とかどうでしょうか。

#### 委員

具体的なことは趣旨問題があるでしょうから、「次の一手」が重要であることをいれておくのはいいと思います。少し抽象的な言葉ではありますが。

#### 会長代理

先ほど「ぬるま湯」という発言もありましたので、「もう少し危機感を持って」という話もいれてもいいかと思います。現状に過信することなく、もっと危機感を持って、もっと攻めてほしいというところが皆さまの思いとしてもあります。K P Iが順調だからといって「いいですね」で終わるのではなく、「豊中市が置かれている現状をしっかりと認識したうえで、今後の展開をもう少し着実な一歩を遂げられるようにしてください」という話を盛り込んでもいいと思います。このような形で、皆さんの思いをもっと述べていただければと思います。

#### 委員

この委員会の最初の議論は人口が減っており、それに対して将来人口の見通しがかなり低いという話があり、いくらか上げていただいたと思います。次の一手・次の一歩というのがなければ本当に下がっていってしまう気がします。それを押しとどめる施策が求められるという言葉があってもいいと思います。

#### 委員

しかし、それほど時間があるとは思えません。

#### 会長代理

ご発言のとおり、先ほど委員が仰っていた学校再編も重要なキーワードになると思います。次の一歩として、しっかり環境整備をすることできちんとアピールできるようなことをしていかなければならないと皆さまお思いだと思います。もう少し前へという部分を出していただければと思います。

#### 委員

他の審議会でも思いますが、なぜいいところをもっと出さないのですか。安心・安全なまちを載せないのでしょうか。安心・安全だから豊中市に住みたいと思ってもらっているなら、その売りをどんどん入れたらいいのではないのでしょうか。なぜいつも入れないのか疑問です。

#### 会長代理

そういう意味では、豊中市の良さや課題があると思いますが、それを再度確認したうえで地域というところが見えてこない気がします。前回の会議でも「地域を分析しましょう」と出てきているのに、答申に地域という言葉が出てこないのが、地域の特徴や地域の良さやプラス課題を再確認したうえで、それぞれの地域に合った施策をできるように考えていただきたいと思っています。それを踏まえたうえで、今後の施策に繋げていただきたいと思いたすし、ひいてはこれがK P Iの進捗状況に関わってきますという書き方をさせていただいてもよいと思います。

#### 委員

委員会としては地方創生交付金の活用の実績を評価することが仕事になると思いますが、やはりいろいろな思いがあることを庁内に伝えていただきたいと思っています。もっと言うなら交付金の活用にとどまらず、来年度の予算編成の方針に盛り込んでいただくような形で庁内に伝えていただきたいと思っています。

#### 会長代理

委員の皆さまは豊中市への熱い思いがあり、豊中市はもっとできるんじゃないか、という思いと歯がゆさがあり、議論したことが繋がっていつてないのではないかとこのころが悩ましいと思います。今後ここでの議論を風化させないように、庁内で共有していくことも重要なキーワードになると思います。せっかくの委員会なので、形だけでなく、委員の熱い思いまで伝えていただければと思います。

#### 事務局

総合戦略委員会のように、いろいろ分野の人たちが一同に会する審議会はこれまであまりなかったと思います。今はK P Iの検証や交付金の検証というところになっていますが、もう少し踏み込んでいろんな分野の人たちの提案を一つ事業の形にして、それを地方創生に繋げていくというところも国の狙いとしてはあるように思います。先ほどの「次の一歩」というところで、期間やさまざまな制約がある中で本市の戦略は、既存事業を集約した形になっていますが、戦略の趣旨に似合った事業を、いろいろな提案で作りに上げていけるようなものもあってもよかったと思います。地方創生をこれだけで終わらせるのではなく、今回いただいた意見も参考にして、引き続き取り組んでいきたいと思っています。この後ご報告いたしますが、昨年いただいた意見をもとに検討しています南部地域活性化構想があります。南部地域の活性化につきましては、企業の人からも提案をいただきながら、今までの手法に捉われないまちづくりを今回の構想で示せればと思っています。

#### 委員

国の手から離れていくこの時期に次の一步をとということですね。

#### 会長代理

諮問を受けての答申なので、なかなか踏み込むことは難しいです。今後の展開として、南部地域の活性化もそうですが、市民のスペシャリストが集まられているんな議論ができるという点では、いろいろな観点から豊中市を活性化させようとしています。その部分で皆さまからいろんな意見をいただいて、今後豊中市をもっともっと活性化できるよう新たな提案ができればと思います。

それでは、本日会長がご欠席のため今後の取りまとめを事務局から説明をお願いいたします。

#### 事務局

本日の委員会でいただきましたご意見を会長にお伝えし、修正した答申案をご確認いただきます。その後会長のご意見に沿って答申案を完成させていきたいと思っております。

#### 会長代理

続きまして、案件3(1)「これからの私たちの南部地域を創る市民ワークショップ(報告)」について事務局から説明をお願いします。

#### ●案件3. (1) 「これからの私たちの南部地域を創る市民ワークショップ(報告)」

#### 事務局

市民ワークショップの概要についてご説明いたします。  
(【資料3】市民ワークショップの概要について)をもとに説明)

#### 会長代理

ただいまのご説明を受けて、市民ワークショップにご参加されたとのことですが、いかがでしたか。

#### 委員

いろいろな面白い意見がたくさん出ました。皆さんがいろいろなアイデアをお持ちで、勉強になりました。最初の方にも申しましたが、これをどう伝えていくかが一番の課題だと思います。まず町内会にどうフィードバックするのか、町内会でどう話し合ってもらえるのかが大事になると思います。より南部の方に知ってもらうにはどうすればいいかが課題になると思いました。ワークショップにもっと参加しやすい形で、体育館を使ってご近所同士で話せることをしても面白いと思いました。

委員

年齢層はどうでしたか。

委員

音大関係の方は若い人が多かったですが、全体的には40～60代の方が多かったと思います。

会長代理

いろいろな年代の方にたくさん来ていただくのはいいことだと思います。シニアの方だけだと町内会の役職などの関係で意見がかみ合わないこともあります。若い年代の人が入ることで面白い話をしてくれるので、若い世代をもっと巻き込んでもいいと思います。ワークショップは若い世代をうまく巻き込むことが大切で、大学の4年間は貴重でいかに豊中市をアピールできるかのチャンスになります。それによってその子が豊中に定着するかどうかは決まってしまうかもしれません。ワークショップなどを使って、若い人たちに豊中市にもっと興味をもってもらっていただく機会になればと思います。

最後に、案件3(2)「その他」について事務局から説明をお願いします

●案件3

事務局

連絡事項が1点ございます。

(連絡事項の伝達)

事務局

当委員会は本日が最後になりますので、政策企画部長から挨拶させていただきます。

政策企画部長

(挨拶)

会長代理

それではこれで豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を終了します。

●閉会